

目次

1:2007年度活動報告

2:2008年度活動計画

別添:2007年度会計報告

:2008年度予算案

1:開発と権利のための行動センター 2007年度の活動報告

1)2006年9月~2007年10月:サン・マルコス県農村開発・農民アソシエーション強化支援
(一部かながわ民際協力基金助成による)

2)2007年3月:グアテマラで開催された先住民族大陸会議開催支援

3)2007年4月~:CONICを通じての自然資源に関わる先住民族組織、地域住民組織強化プロジェクト(一部アユスの助成金を受ける)

- その他:開発と権利のための行動センターのWEBサイトおよびブログによる情報発信、スペイン語の鉱山開発関連データベース作成など

1)サン・マルコス県 農村開発・農民アソシエーション強化支援 2006年9月~2007年10月
(一部かながわ民際協力基金助成金による)

2006年9月より、グアテマラ西部のサン・マルコス県において農民組織強化のためのプロジェクトを実施しました。

開発と権利のための行動センターでは2004年10月に鉱山開発問題に揺れるサン・マルコス県の視察を行い、地域で活動する住民組織、社会運動グループとのコンタクトを開始しました。その後、それらの組織を通じて、鉱山開発に関わるセミナーなどの実施支援を行うとともに、鉱山開発に関わる情報収集発信を行ってきました。またサン・マルコス県は2005年10月のスタン台風で大きな被害を受けた地域の一つでもあり、被災後の復興支援に関わる視察でMTC(農民労働者運動)と将来のプロジェクトについて協議を行いました。

現地カウンターパートであるMTC(農民労働者運動)は1997年に活動を開始した組織で、サン・マルコス県各地の10の農民アソシエーションが参加し、総構成員約二千名の組織です。カトリック教会の社会司牧委員会の支援なども受けつつ、コーヒー生産地域の農民組織強化、農業労働者の権利確立、土地入手支援、政治参加支援、先住民族の権利支援、農村開発などに取り組んでいます。

今回のプロジェクトではサン・マルコス県高地の4つの農民アソシエーションの強化のための活動をMTCとともに行いました。実施した活動は以下の通りです。

- (1)農民アソシエーションの普及員に対する農業技術・地域開発手法に関する研修
- (2)農民組織間の経験交流(近隣地域で堆肥生産に取り組む農家、野菜栽培農家などの視察)
- (3)地域の現状調査
- (4)MTCの組織強化、アソシエーションの組織強化のための助言活動

行動センターでは、活動計画案策定についてMTCと意見交換を行い、その後MTCが雇用した現地の専門家

が、研修等の活動を実施しました。行動センターでは、現地からの文書による報告、現地調整員の報告などに基づいて、MTC に対して助言等の活動を行いました。普及員に対する研修プログラムというのは現地の NGO などでもよく行われるものですが、その普及員が研修で学んだ内容をどのように実地に移していくのか、という点が重要となります。研修テーマがそもそも地域のニーズとマッチしているのか？受講した内容は地域で利用可能なのか？普及員はどうやって活動していくのか？まず研修が MTC が行うものとしてではなく、地域の農民アソシエーションのものになることが必要です。

今回のプロジェクトの中では、参加しているアソシエーションのオーナーシップを高めるため、研修計画や視察の計画を立てる段階で、MTC のスタッフとアソシエーションの普及員及び理事の参加による会議を行うこと、研修の成果を有効に活用するため、アソシエーションの理事と MTC の合同のモニタリング会議を開催すること、また MTC が組織内部で、このプロジェクトの担当者に任せきりにするのではなく、組織内部で活動の進捗をモニタリングし、担当者の弱点などを補いながら必要性などをアドバイスしつつ活動を行いました。

行動センターとしては、直接に現場での活動を行うのではなく、現場との接点をもつ組織が、地域のニーズとイニシアティブをくみ上げながら活動を改善させていくことが重要だと考えています。

2007 年 9 月には最後の集まりが開催され、研修への感想や、今後への意見がだされました。「自分たちでやっていくための力がついた」という声もあり、一安心。男性も女性も意見を出し合いながら今後の計画を練っている姿は大事なものです。

今回のプロジェクトは 1 年間で終了ですが、現地の様子を見つつ、今後の展開を考えたいと思います。

2) グアテマラで開催された先住民族大陸会議開催支援(2007年3月)

2007 年 3 月 26 日から 30 日にかけて、グアテマラでは「アビヤ・ヤラ先住民族大陸サミット(III . Cumbre Continental de Pueblos y Nacionalidades Indígenas del Abya Yala)」が開催されました。

開発と権利のための行動センターは、2 月に現地での主催団体の一つであった CONIC (グアテマラ先住民族・農民全国調整委員会)を通じて開催支援要請を受け、日本ラテンアメリカ協力ネットワーク と合同で会議開催のための資金援助要請を行いました。

その結果計 1550 ドルの寄付金が集まり、会議開催のための寄付金として、グアテマラ在住の石川さんを通じて CONIC 提供しました。

先住民族大陸会議開催支援 会計報告(US\$=122.79でドル建てに換算)					
収入			支出		
団体寄付(5団体)	990	ドル	1000	ドル	3月14日
個人寄付(11人)	560	ドル	350	ドル	3月22日
			200	ドル	3月30日
計	1550		1550		
団体寄付は次の団体から頂きました。 先住民族の10年市民連絡会 ナマケモノ倶楽部 中南米と交流する京都の会 および呼びかけ団体 日本ラテンアメリカ協力ネットワーク 開発と権利のための行動センター					

またこの会議に参加された 2 名の方を招いての報告会を 4 月 21 日、下記団体の共催にて東京で開催しました。

共催団体:開発と権利のための行動センター / 市民外交センター / 先住民族の権利ネットワーク / 先住民族の 10 年市民連絡会 / ナマケモノ倶楽部 / 日本ラテンアメリカ協力ネットワーク / 反差別国際運動 (IMADR) グアテマラプロジェクト

この報告会の際に、大陸会議の宣言文などを含んだ資料集を作成しました。(次のサイトからダウンロードできます。<http://homepage3.nifty.com/CADE/campaign/cumbre.html>)

また開発と権利のための行動センターは、NHKの大陸会議取材の事前準備にも協力しました。(2007/4/5 NHK 衛星第 1「きょうの世界」で報道されました)

3) 自然資源に関わる先住民族組織、地域住民組織強化プロジェクト(2007/4~)

このプロジェクトは開発と権利のための行動センターが 2004 年から行っている「未来を決める権利は誰のもの」キャンペーンから派生した活動であり、またイサバル県で行ってきた地域先住民族コミュニティ強化のための活動の延長線にあります。

グアテマラでは地域の自然資源の利用について、そこに生活する地域住民に、地域の先住民族に相談もなく、情報を提供することすらなく、開発あるいは「自然保護区」が外部から押しつけられ、強引に進められるケースが相次いでいます。こうした中で、開発と権利のための行動センターでは、地域の住民組織、先住民族組織が法的な権利や現状について情報を持ち、自分たちで決定し、自分たちの資源を管理し、利用していく力を持つことが重要と考え、支援を行っています。

更に、今年からはアユス(仏教国際協力ネットワーク)のパートナーシップ支援事業の助成金を受けることができ、CONIC(グアテマラ先住民族・農民全国調整委員会)とともに、「グアテマラにおける『先住民族の自然資源への権利』に関わる住民組織強化およびネットワーク強化支援」のプロジェクトを開始しました。

このプロジェクトでは「先住民族組織および住民組織が、自然資源への権利について知見を高め、また類似の問題に取り組むグアテマラ国内(外)の諸組織間の連携を強化し、課題対処能力を高めること。」を目的として、3年間の計画で活動を実施していきます。

具体的には

住民組織強化のための研修事業の実施

(自然資源管理に関わる国内法、国際法、具体的な問題と解決などの事例紹介など)

先住民族組織、住民組織間の連携を高めるための相互訪問による経験交流事業の実施

合同ワークショップの開催

などを行っています。

特に自然保護区の問題を抱えるイサバル県リピングストンの先住民族コミュニティとそこが組織したコミュニティ間のアソシエーションの強化と協力団体である CONIC 強化の二本立てで活動を展開していきます。

この 10 月には、グアテマラ国内各地で活動する CONIC の地域支援のメンバーといくつかの地域のコミュニティリーダーを招いての研修と経験交流のセミナーを開催しました。

自然保護区との問題を抱える3地域の先住民族コミュニティの代表や支援組織のメンバーを講師に招き、それぞれの地域でどのような問題を抱えているのか、現在どのような方向に向けて取り組んでいるか、などの話を聞き、そのあとにグループで今後行うべき活動についての議論を行いました。

このセミナーの中でも課題としてあげられたのが、コミュニティ組織強化の重要性や住民側の弱さ(情報不足、法的知識不足、弁護士不足)また地域の言葉で情報提供することなどです。

保護区のことにしても、鉱山開発にしても国は十分な情報を提供しません。たとえば鉱山開発の開発権の認可に際しては、コミュニティには届きもしない官報に掲載して、それでよし、という態度です。

こうした中で、地域の住民組織や先住民族組織が情報を持ち、それを地域の人々と共有すること、また関連する法律、自分たちの権利を守ることになる法律についての知識を持つことなどが不可欠です。関連法が地域の先住民族の言語に訳され、提供されることも重要なことです。

そこで開発と権利のための行動センターでは、地域の住民組織、先住民族組織の強化や情報提供、先住民族組織間の意見交換のスペース拡大などを重要な課題と考え、そのための取り組みを行っています。

国際社会からの、アドボカシーというような取り組みもあるかと思いますが、行動センターでは地域の組織強化、地域の中で生まれ、育つ活動を支援していくことが最も重要だと考えています。

- 情報収集・発信活動

- < 海外向け >

グアテマラにおける鉱山開発に関して、情報を収集するとともに、スペイン語版の Web サイトを立ち上げて情報の発信を行ってきました。

<http://homepage3.nifty.com/CADE/Espanol/mineriaindex.html>

また現地協力団体である CONIC の声明文も整理して Web サイトに掲載しています。

<http://homepage3.nifty.com/CADE/Espanol/CONIC2007.html>

- < 国内向け >

今年は主として行動センターのブログでの情報発信に取り組みました。

バイオ燃料

一つの柱は中南米におけるバイオ燃料関係の動向です。これは 2007 年 1 月のメキシコにおけるトウモロコシ価格高騰をきっかけに継続的に情報収集・発信に取り組みました。これは中米の人々の食糧安全保障にも関わる問題であり、また食べ物と環境に関わる地球的問題でもあります。ブログでは中南米での問題や関係文書などを紹介しています。

<http://cade.cocolog-nifty.com/ao/cat7897562/index.html>

先住民族大陸会議に向けた中南米の先住民族組織の声も積極的に紹介しました。こちらは行動センターのメインサイトの方に整理してあります。

<http://homepage3.nifty.com/CADE/campaign/cumbre.html>

ダム開発問題

グアテマラ北部のイシュカンにおけるダム開発問題またそれに関連する住民投票の話も数回にわたって報告しました。

<http://cade.cocolog-nifty.com/ao/cat7897563/index.html>

鉱山開発と住民による協議

鉱山開発とそれに関わって実施された住民協議の話も継続的にフォローしています。

<http://cade.cocolog-nifty.com/ao/cat4745721/index.html>

自然保護区と先住民族の取り組み (グアテマラ)

3 回にわたって先住民族と自然保護区の関係についての報告を掲載しました。

<http://cade.cocolog-nifty.com/ao/cat7897564/index.html>

理事

代表 青西靖夫

代表代行 木村剛

理事 (事務局兼任) 栗田桂子

2: 2008年度の活動計画案

1) 自然資源に関わる先住民族組織、地域住民組織強化プロジェクト(2007/4~)

(1) 自然保護区に関わる住民アソシエーション強化(リビングストン)

地域先住民族組織・住民組織強化支援・組織強化、関係機関との連携強化

グアテマラのイサバル県リビングストンの住民アソシエーションの強化のための活動実施を支援

CONIC と連携しつつ、サンタクルス山域の保護区計画地区の住民組織強化のための活動を支援し、将来的な地域住民による自然保護区、あるいはその他の形態による自然資源の持続的利用を支援する。

予算としては、助成金を現在(財)神奈川県国際交流財団に申請中であり、総予算95万円程度と考えている。

助成金が取れなかった場合でも約40万円ほどは支出を見込んでいる。

(2)先住民族組織強化支援:経験共有と戦略策定支援

CONIC とのプロジェクトであるが、前年度の活動の結果から、上記(1)のリビングストンでのプロジェクトを独立したものとして切り離すとともに、組織の弱体化、連携の弱体化が見られるエストルにおける地域先住民族組織の強化、連携支援に焦点を当てる方向での修正を行う。(アユス助成金の利用)

(3)先住民族による自然資源の管理および利用に関する事例の収集・分析

今後の活動を的確に行うため、グアテマラおよび将来的には中米各国における「先住民族による自然資源の管理」に関わる調査事業を実施する。(地球環境基金へ申請の予定)

2) 情報発信

-これまで継続してきたブログにおける情報発信の継続

-会員向けとしてきたメーリングリストによる情報提供を、一般に開放する。

3) その他

* 当会の目的に沿って必要と思われる、調査研究、現地支援活動の実施。またそのために必要な資金獲得のための諸活動の実施。

* また上記の活動のために必要な人材の派遣を行う。